

■「訪ねてみたい水の国、カンボジア」の灌漑プロジェクトの概要と紹介

昨年9月に始まった JICA の技術協力プロジェクトの「流域灌漑管理及び開発能力改善プロジェクト」（以下、「TSC3」という。）では、昨年7月まで実施された「灌漑技術センタープロジェクト（以下、「TSC1 及び TSC2」という。）で培った農民参加による灌漑施設の整備と維持管理技術の普及に加え、新たに流域灌漑の開発管理に係る人材育成と組織強化を担っており、これに必要な技術移転を進めます。

気象水文、河川流況の観測データが乏しい地域で、灌漑用水の開発管理を流域単位で効率的効果的に行うため、メコン河流域における「分布型水循環モデル」の活用を進めることにしています。流域灌漑の仕組みの構築には、複数年の継続的な活動が不可欠ですが、仕組みが構築されたあかつきには、適用可能なモデルを活用することで、例えば、森林、農地等の土地利用の変化や発電用ダム建設による流況の変化に伴う流域内の水利用への影響の把握、或いは流域内の水利用バランスを考慮した新規灌漑施設の導入検討等が容易に行えるものと考えられます。このため、現地では、流域灌漑という新たな概念の構築に対し、増本チームの優れた知見と機動力、高い先進性を備えた技術的探求力による貢献に期待が高まっています。

カンボジアでは、農業は GDP の約3割、就業人口の約2/3を占めて、近年の経済成長を牽引する重要な産業です。このため、農村部の経済発展による貧困削減は政府の最重要課題の一つです。JICA はこうした政策的背景を踏まえて2001年度から TSC1 及び TSC2 を進めて来て、灌漑技術者の育成や関係組織の強化に大きな成果を修めてきました。

TSC3 は、実施期間が昨年9月から2014年8月までの5カ年間の予定で、JICA 側は長期専門家3名体制を基本に、カ国水資源気象省灌漑技術センター（TSC）を対象に実施しています。TSC3 は、灌漑施設の整備と維持管理に係る活動を国内6州に11地区のモデルサイトを設けて行うほか、流域灌漑に係る活動は二つのモデル河川で行っています。こうした活動を通して、効率的な水資源管理と農業生産の安定に寄与することにしています。カ国政府は、プロジェクト成果に大きな期待を寄せ、TSC を将来は Institute 化して灌漑分野における人材育成の拠点とする構想を有しています。

（TSC3 チーフアドバイザー 長井 薫）

別添（関連 URL で紹介）

1. TSC3 活動のイメージ図
2. 流域灌漑管理・開発システム構築の概念図



雨季の Damnak Ampil 地区 (Oct/2009)

カンボジアの水路は、地面を掘った土水路が基本です。そのため、水路に草が生え、斜面が崩れ、また、貴重な水が地下に浸透してしまうなどの問題が起こります。日本の水路はコンクリートが基本ですが、カンボジアでは高価なコンクリート水路はめったに見られません。向かって左側には水田が広がっています。



Pursat 川の河川観測施設

河川堤防に設置された川の水位変動を記録する機器類格納の施設です。そのため、この施設と河川水位感知機器はケーブルでつながっています。河川流域の流量把握に必要な施設ですが、建設コストと維持管理が負担となって数が足りません。